

「こころつなぐ」

2022年
夏

羽吹 さゆり様コラム

【つながるといふこと】

時代と共に「生きて」生きていく

ネオ・サミット湯河原 安心する暮らしの傍らに「温泉」という日常を

もみの樹・練馬のリハビリ「3(sun)リハ」紹介

3人体制で効果的なリハビリ指導をしています。

もみの樹・渋谷本町 ~ご入居者へ“楽”のご提供を~

6館合同旅行プロジェクト

初夏の小豆島 二十四の瞳とオリーブを巡る瀬戸内グルメ旅行

もみの樹・杉並「スタッフ座談会」

開設17年目を迎えて…新たな「もみの樹・杉並」始動。

感動プロジェクト 認知症ケア ネオ・サミット茅ヶ崎 ケアレジデンス

スタッフの思い込みケアから
ご入居者ファーストのケアへ

感動プロジェクト オンリーワン

もみの樹・横浜鶴見

入院先から入居することに…
でも、もう一度自宅に行きたい!

古宇利大橋

沖縄本島北部の屋我地島と今帰仁村の古宇利島とを結ぶ離島架橋。全長1960mある橋の両側には、沖縄の美しい海が広がり、まるで海の上を走っているような気分が味わえる絶景のドライブコースとなっている。視界一面に広がるマリンスターを展望できる沖縄の注目スポット。

こころつなぐVOL.20 (介護付有料老人ホームもみの樹 ネオ・サミット情報誌通巻20号) 2022年7月発行

「こころつなぐ」

人と地域、そして心豊かな暮らしへの架け橋を築く

大和ハウスライフサポート。

そこには、ご入居者やそのご家族の

さまざまな夢や願いの実現をお手伝いしたいとの

想いが込められています。



0120-07-4165

受付時間:午前9時~午後5時



介護付有料老人ホーム
もみの樹・練馬
東京都練馬区平和台2-50-1



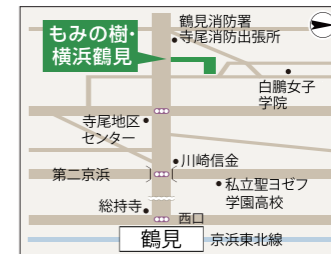
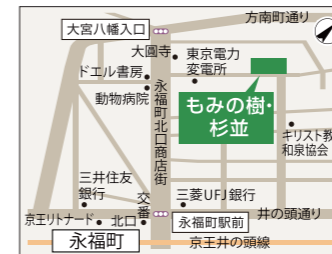
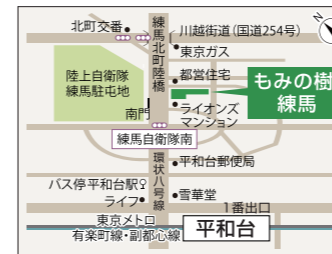
介護付有料老人ホーム
もみの樹・杉並
東京都杉並区和泉3-52-8



介護付有料老人ホーム
もみの樹・横浜鶴見
神奈川県横浜市鶴見区北寺尾4-3-1



介護付有料老人ホーム
もみの樹・渋谷本町
東京都渋谷区本町5-25-1



介護付有料老人ホーム・住宅型有料老人ホーム
ネオ・サミット茅ヶ崎
神奈川県茅ヶ崎市東海岸南4-3-3



介護付有料老人ホーム
ネオ・サミット湯河原
静岡県熱海市泉17-2



Daiwa Life Support
大和ハウスグループ

大和ハウスライフサポート株式会社

東京都港区三田3丁目1番7号 三田東宝ビル6階 〒108-0073 Tel 03-3456-4165(代表) Fax 03-3456-4175
当社は大和ハウス工業(株)の100%出資による子会社です。

大和ハウスグループの経営のシンボルである「エンドレスハート」は、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
© Copyright 2022 DAIWA HOUSE INDUSTRY CO.,LTD. All rights reserved.

We Build ECO | 森林育成紙™使用

時代と共に「活きて」「生きていく

高度経済成長期。私はそう呼ばれる時代の東京都で生まれ育ちました。生まれた時には既に、東京空襲によって祖父や叔母は逝去。そのため、核家族で育ちました。

しかしながら、幼少期の街にはとても活気があり、住民同士が密接で、近所のおじさんやおばさん、お爺ちゃんやお婆ちゃん達に囲まれて安心して遊んでいたことを今でも記憶しています。

そんな環境に変化を感じたのは、高度経済成長の中で高層マンションがどんどんと建ち並ぶようになってからのこと。そして、日々深刻化する超高齢化は、このような人付き合いの希薄化した街・社会を舞台に起きている問題です。

私が住んでいる豊島区は独居高齢者が日本一多いと言われ、空き家や更地も増えました。現在は自治体を挙げて再開発が進み、あちらこちらで若い方が暮らしやすいタワーマンションが建ち並ぶようになりましたが、一方で、「お隣にどんな方が住ん

でいるのかわからない」「顔はわかっていないけれど、どこに住んでいるのかわからない」といった、確固たるつながりがなく、状況で、人と人とが同じ街に住んでいるという現象が生まれました。

隣で人が亡くなっても気がつかない、なんてことも珍しくはない現状を、はたしてこのまま続けていて良いのかと考えることが増えました。このことに考えを巡らせると、とても淋しい気分になるのは、私だけではないはず。

そんな中、ひとつの希望として強く願ったことが、「若い世代の子どもたちに高齢者に関心を寄せてほしい」ということ。



に学び、学校では教わらないような「人生の尊さ」を感じてくれたのではないかと思います。また、その後は、お寺のご住職からお声がけいただき、地域の高齢者の方々が集まりやすいお寺を月に1回お借りして「ときめき未来カフェ@金剛院」を開催しました。

そこには、地域の高齢者の方をはじめ、住職、弁護士、成年後見人、医療従事者、介護支援専門員、介護事業者、不動産屋さん、芸能人の方、国会議員、区会議員、美容師さん、お弁当屋さんなどが口コミでどんどんと集まり、老若男女の方々がごちゃ混ぜでビールや酎ハイを酌み交わし「最近ときめいた話」をお題に話すだけのカフェを開催していました。帰りは程よく酔って、童心に返り、仲良しになって、カフェ以外のところでもつながり、交流が



経新聞 WEB版 ゆうゆうライフ掲載

始まっていったと聞きました。現在はコロナ禍で休止中ですが、多い時には70名近くの方が参加され、地域のちよとした拠点になっていたのではないと思えます。「顔と顔がつながり、線となり、やがて面となる」まさにその途中だったと思います。「ときめき未来カフェ」は毎月開催していましたが、必ず参加されていた高齢者の方が、やがてはカフェのお手伝いをしてくださるようにもなりました。参加は自由なのですが、お休みが続くと「私が様子を見にいきます」と積極的に関わってくれるようにもなりました。「ここに、いつまで来ることができるかしたら!?ここに來ることが楽しみ!」とおっしゃっていただけなのが嬉しくてたまりません。この場所が病氣、介護、相続等の相談から、日々の暮らしの相談も気軽にできる場所だったのでないかと思えます。まさに民間レベルですが、草の根的な地域包括ケアシステムが稼働していたと感ずります。



第14回ときめき未来カフェ

その願いを実現するために、まずは豊島区子ども地域活動支援事業「こども達が考える高齢者との共生社会創り」活動を提案して3年間開催しました。

その3年間では、高校生たちが「高校生快活部」を発足し、高齢者の広場や介護施設等で音楽バンドで高齢者の方々と交流を深めました。独居の方の中では「子どもたちと話をしたのは何年ぶりだろうか。」と涙ながらに喜んでくれる方も。また、自分の祖父母以外の高齢者の人と話すのは初めてという中高生も少なくはありませんでした。子どもたちができることは限られてはいますが、死生観を自然



羽吹 さゆり

(有)羽吹デザイン事務所
介護事業部アモールフアティ代表
アモールフアティスクール長(2021年8月)
介護福祉士/介護支援専門員/介護技術指導員/日本語教員/
社会科教員/介護職員実務者教員/社会福祉士主任
著書:「親をキライにならないための家族介護のススメ」(2020年8月)

このコロナ禍でこの交流が途絶えてしまったのも残念でなりません。が、「ときめきオンライン未来カフェ」と称して、オンライン上での会合を開催したり、なんとか交流を途絶えないうに工夫もしました。



残念なのは、独居高齢者の方でパソコンが家になかったり、携帯電話の使い方もよくわからないなど、やはり、IT・ICT、SNS等の方法が難しく感じられて参加を断念せざるを得ない方々が少なくなかったこと。他人と交流ができないというのは、本当に独居の方はお辛かったと思います。

それでも、電話を活用し、安否確認をしたりしていましたが、途中で連絡が途絶えてしまう高齢者の方もいらっしゃいました。後から、ご自分で高齢者施設にご入居されたら聞いて安堵しましたが。

今は少しずつですが、距離を置きつつ会うことも叶うようにもなりました。これを機会に「毎月」とはいかなくとも、少しずつ再開できればと考えています。

(次回につづく)

安心する暮らしの傍らに 「温泉」という日常を

古くから万葉集にも詠われた関東一の古湯とされる自然豊かな温泉地「湯河原」。その片隅に建つネオ・サミット湯河原（所在地は静岡県熱海市）は、開設36周年を迎えた介護付き有料老人ホームです。

「湯河原」と言えば「温泉」と真っ先に連想するほど浸透しており、温泉場には古くからの旅館や温泉施設が点在しています。そんな土地にあるネオ・サミット湯河原にも、天然の湯河原温泉を引いた温泉浴場があります。男女別にご利用いただくため大浴場と小浴場があり、それぞれ浴槽が2つ。温度を高め42度と温め40度に設定し、お好みでご利用いただいています。



入浴は毎週水曜日(清掃日)を除く毎日利用可能で、時間は15時～21時の6時間です。



大浴場 ※加温・加水循環・ろ過式



小浴場 ※加温・加水循環・ろ過式

イベントや、「免疫力アップ食」を採用した食事メニューなどを取り入れ、外と内から体の状態を保つための試みを継続して行っています。

入居後に介護が必要になった場合には、敷地内のケア棟への住み替えも可能で、ケア棟の浴場も温泉となっていますので長く温泉に親しむことができます。また、お看取り介護まで対応できることもご安心いただける要素の一つです。



是非、安心した暮らしとその傍らにある「温泉」を満喫できるライフスタイルの場として、終の棲家の場として、当館をお選びいただければ幸いです。

もみの樹・練馬のリハビリ「3(sun)リハ」紹介 3人体制で効果的なりハビリ指導をしています。

機能訓練指導員の紹介

もみの樹・練馬では、ご入居後最長6ヶ月間、週3日、3名の機能訓練指導員によるリハビリをご利用いただけます。



運動機能を維持・向上させる
「理学療法士」



美味しく食事がとれる
お手伝いをする
「言語聴覚士」



自身でできる事を維持する
「作業療法士」

リハビリ事例 ● K様(90代後半) 要介護4

「理学療法士」「作業療法士」が連携して機能も意識も向上へ。

K様は、左手首の骨折と第2腰椎の圧迫骨折歴がありました。左上肢筋力と左手指の握力低下により手指の動きが悪い状態です。また脊柱が前に倒れており、腰と左膝の関節痛を患い、脚の筋力やバランス能力も低いことから、歩行も難しくなっていました。

そこで、K様とご家族のご希望である「杖を使い腰をまっすぐ伸ばして歩く」「自宅の階段を昇降できるようになる」「左手の握力を向上させる」を目標にリハビリをスタートしました。

■ある週のリハビリ内容

月 「理学療法士」 30分対応
関節可動域練習、ストレッチ、筋力練習、歩行練習、階段昇降練習、居室内での自主トレーニングの助言



水 「作業療法士」 30分対応
上肢関節可動域練習、筋力強化、ストレッチ、手指機能訓練(グー・チョキ・パー、ピンチ、指数え等)、タオル掛け、お手玉、ADL動作練習、歩行練習等のプログラムを実施、居室内での自主トレーニングの助言



金 「理学療法士」 30分対応
関節可動域練習、ストレッチ、筋力練習、歩行練習、屋上庭園散策

6か月後の評価

歩行時の姿勢が良くなり、杖をつきながらですが安定して歩けるようになり、K様が抱いていた歩行への苦手意識がなくなりました。

スタッフによる見守りは必要ですが、階段の昇降もできるようになり、自宅への外出が可能に。左膝の関節痛はなくなりました。また、左環指・小指の痺れは残るものの、握力は右9.2↓12.2、左1.0↓8.5に向上しました。

リハビリ機器の紹介

目的に対応した各種リハビリ機器を確保。

各種リハビリ機器を導入し、科学的根拠のあるリハビリや介護を積極的に実施しています。例えば「免荷式リフトP.O.P.O」は、機能訓練指導員以外の介護スタッフの見守りで、歩行が困難な方の安全に配慮しながら、苦痛なく立位保持練習や歩行練習を行っていただけの機器です。



もみの樹・渋谷本町「ご入居者へ」楽々のご提供を

当社では今年度「楽々」をコンセプトとしてサービスの提供に努めています。ご入居者に「楽々」しい生活を送っていただき、職員は「楽々」しんで仕事ができるよう、「楽々」の原点である「笑顔と感謝」を常に心掛け、日々取り組んでいます。

アクティビティとイベントを強化

もみの樹・渋谷本町ではご入居者の「楽々」を追求するために4月よりアクティビティとイベントの委員会を分けて活動を強化しています。

アクティビティ委員会は既存のアクティビティのブラッシュアップに着手しました。お身体の状態が軽度〜中度の方と重度の方に対応して、2種類のアクティビティをご提供するようになりました。

イベント委員会は年間計画に従ってイベントを企画・開催します。コロナ禍で縮小していたイベントも、どのようにすれば今まで以上にお楽しみいただけるか考え、企画・準備をしています。

新たに手芸サークルが誕生

お茶や趣味、映画などを楽しみながら、コロナ禍の「隙間時間」を有意義に過ごしていただくためにオープンした「Hon街café」。そのスタッフ増員を機に「今まで以上にご入居者に楽しんでもらいたい」と考えていたスタッフが、ご友人から紙テープを使った小物作りを習った際「caféでもできるのでは？」と思いつき、手芸サークルが誕生しました。



作品



作品材料



最初に作った小物入れ

最初に作った小物入れは、居室に持ち帰り使っていただいています。現在制作中のバックについては「これを持って買い物に行きたいわ」という声が続々。「楽々」の書がある展示コーナーに飾り、リハビリの時間などに見えていただけることも、参加者の喜びになっています。



6館合同旅行プロジェクト

初夏の小豆島二十四の瞳とオリーブを巡る瀬戸内グルメ旅行

町に遊びに来てくれ、笑顔あふれるひと時となりました。

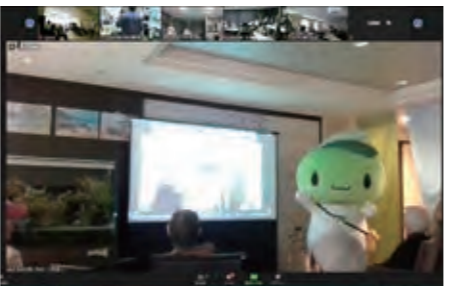
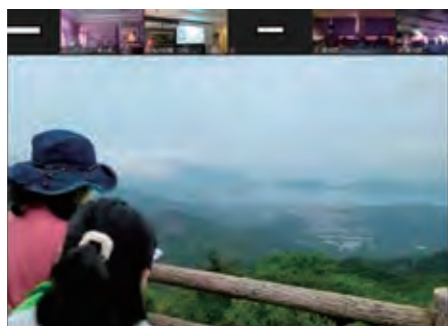
見て、味わって、歌って、旅気分を満喫

午前中は寒霞渓ロープウェイに乗り、島を一望できる鷹取展望台に上がりましたが、あいにくの曇天のため、瀬戸内のきれいな海を見ることができません。そのかわりにガイドさんに売店で販売されている小豆島特産のオリーブを使った商品などを紹介してもらいました。

昼食は館ごとにオリーブ牛などの瀬戸内名産の食材を使ったコース料理をご提供いたしました。もみの樹・渋谷本町では、出来たてを召し上がっていただけるよう、コース料理を数品ずつお出ししたので感じにくかったと思いますが、普段の食量よりも多かったにもかかわらず、皆様「おいしい」と



コロナ禍になる前は毎年、春と秋に二泊二日の旅行を実施していましたが、昨年の秋と同様に、6館のご入居者72名にオンラインで旅気分を味わっていただきました。今回は小豆島のマスコットキャラクターの「オリーブしまちゃん」がもみの樹・渋谷本



おっしゃって、じゃ〜ご飯やデザートまでほとんど完食されていました。

午後の部は小豆島を舞台に描かれた「二十四の瞳」映画村を回り、ガイドさんの生ギターでご当地ソングの瀬戸の花嫁と波辺の歌を歌ってオンライン中継は終わりました。

ご入居者が途中でトイレに行きたくなったり、疲れてしまったりしないように、1時間ずつの2部制にしました。各館に呼びかけられたり、体操をしたりするなど、参加型の旅行になるよう旅行プロジェクトメンバーが構成を考えて実施しました。次回もご入居者に喜んでいただける旅行を企画したいと思います。

もみの樹・杉並「スタッフ座談会」

新体制になって決意新たに、やるべきことをしっかりと。

4月より新体制になり、より一層のサービス向上のために、目標や課題に向き合う、各フロアの副主任と看護副主任にお話を伺いました。

今、特に力を入れて取り組んでいることを教えてください。

【西嶋】 4月に館長の交代や主任の異動があり、新しい体制作りをしているところなので、責任者としてみんなが自信を持って働けるようサポートしています。協調性のあるメンバーなので、まだまだ良いチームになると思いますよ。

【平井】 スタッフ間で情報共有して、業務がスムーズに遂行するよう努めています。オンラインツアアの準備もありますし、副主任になって忙しい日々ですが、目の前の仕事に邁進中です。

【児玉】 副主任になって1ヶ月余りなので、今まで以上にフロア全体を見回すようにしています。みんなと協力してより良いフロアにするため、気づいたことを積極的に発信しています。

【庄司】 副主任という責任ある役割を引き受けたからには、しっかりとやっていく覚悟です。常に



ご入居者の立ち場を意識して、ご入居者とスタッフが信頼関係を築けるよう見守り、導くようにしています。

また、ご入居者の日常生活動作を低下させず、快適な暮らしを守ることも、私たちの大切な仕事なので、生活リハビリにも力を入れています。

【稲垣】 体調不良で居室対応になっても、ご入居者に笑顔で過ごしていただきたいですよね。そのためにはスタッフの笑顔も大切なので、みんなのモチベーションにも配慮しています。

3階は、主に認知症の方がお過ごしになるフロアなので、ご入居者が手作りした作品や思い出の写真を飾って、雰囲気明るくなるよう心がけています。

【都築】 看取り支援ですね。国で推奨しているアドバンステアプランニングについてご本人とご家族に説明をして、いざという時に心の負担が軽くなるようサポートしています。

※アドバンステアプランニング(ACP)：終末期を含めた今後の医療や介護について話し合っておくこと。

今後さらに取り組みたいことは何ですか？

【西嶋】 「主任や副主任になりたい！」という人が増えるようサポートしていきたいです。優秀なスタッフばかりなので、みんなの成長が楽しみです。そして、館全体のまとまりにも繋がっていくよう、自分の役目を果たすつもりです。

【平井】 今受講している認知症実践者研修の中

で、現場での取り組みを発表予定です。今後は勉強の成果を活かして、より質の高いサービスを提供し、ご入居者に笑顔になっていただきたいと思います。また、リラクゼーションルームができる予定なので、エステティシャン時代に習得したマッサージや施術技術を活かせたら嬉しいです。

【児玉】 新米副主任なので、自分の仕事ぶりに満足できるよう、まだまだ頑張ります。

コロナ禍で行事や外部ボランティアが制限されましたが、徐々に緩和されているので、ご入居者の楽しみが増えるよう、いろいろ企画していきます。得意の料理もアクティビティに活かせると思います。

【庄司】 まだ自由に外出できる状況ではないので、館内でも季節を感じてもらえるレクリエーションを取り入れていきたいです。以前人気のあったお菓子作りに替わるような楽しい企画も必要ですね。

【稲垣】 行動制限がある認知症の方でも、開放感を味わえる場面を作って、笑顔の時間を増やしていきたいです。

あと、西嶋さん同様、責任を持って仕事ができる後任育成も頑張ります。

【都築】 最近、館全体のために貢献できるよう、営業にも関わるようになりました。ご本人やご家族に安心してご入居いただけるよう、看護スタッフの立場から協力していきたいです。

より一層、多職種の皆さんとの連携を強化しながら、館全体を盛り上げていく一助になれたらと思っています。



看護副主任
都築 正義



3階副主任
稲垣 重美



2階副主任
庄司 美和



2階副主任
児玉 琢



1階副主任
平井 美貴



生活サービスグループ課長
サービス責任者
西嶋 理恵

開設17年目を迎えて…新たな「もみの樹・杉並」始動。



もみの樹・杉並は、介護保険における法令基準の2倍となる

「L5・1」以上の介護・看護スタッフを配置し、フリーデイ(その方のご要望を叶える日)を設けるなど、個別ケアに力を入れてきました。4月から新しい館長のもと、良い伝統は残しつつ、最新のIT技術を取り入れたりと、柔軟な発想で今までにないことにチャレンジしていく、新たな「もみの樹・杉並」が動き出しました。

安心・安全を支える 最新技術を導入

もみの樹・杉並では、最新IT技術の導入により効率的にご入居者の安心・安全を守り、スタッフがご入居者と関わる時間を増やせるよう取り組んでいます。

導入している機器を分かりやすく説明するために、モデルルームに展示パネルを設置しています。転倒リスクの高い方には「ころやわ」など、実際に体感してご納得いただけます。ご利用いただくことを心掛けています。ご高齢になると夜間に何度も起きてしまい、なかなか深い眠りにつくことができない方が多いのですが、「眠りSCAN」というセンサーをベッドに設置することで、眠りの質をデータ化し、ケアに活かしています。ご本人の心身の状況に

新館長のごあいさつ

もみの樹・杉並は閑静な住宅街の中にあり、広い敷地に草花を巡らせる穏やかでゆつたりとした環境が特徴のホームです。開設17年目を迎える今年は、共用部各所の修繕を始めております。お住まいになれる皆様に、心地よくご生活いただくための取り組みを進めてまいります。



館長
大西 倫太郎

合わせて機器を選定し、ご利用いただけるよう、個別に提案を差し上げています。是非一度ご見学にいらしてください。



導入機器を見学できるモデルルーム



【服やっくん】
服薬予定を立て、投薬スケジュールを管理する服薬支援システムを導入し、配薬時の人違いや二重投薬の防止など、投薬直前に確認を行うことができます。



【ころやわ】
転んだときなど、強い衝撃を受けたときだけ柔らかくなる、衝撃を吸収する床素材です。転倒による骨折予防対策として取り入れています。

新トレーニングルームが完成

6月1日に新しく1階のトレーニングルームが完成しました。朝日が差し込む1階のリビングを改装し、筋力の維持向上を目指す機器から、有酸素運動ができる機器まで、各種のリハビリ機器を導入しました。お元気な方はいつまでもお元気に、少し元気がなくなってきた方は、以前の元気を取り戻していただくために、午前と午後1時間ずつ、常勤の機能訓練指導員(P.T/理学療法士)がご希望時に付き添い、プライベートレッスンに近い環境でリハビリのアドバイスなどお手伝いを実施します。



感動

プロジェクト

認知症ケア

ネオ・サミット茅ヶ崎ケアレジデンス A様(100歳超) 要介護2

スタッフの思い込みケアから ご入居者ファーストのケアへ

認知症と睡眠について

認知症の方は昼夜逆転、入眠障害や中途覚醒によって十分な睡眠がとれなくなる場合があります。原因の一つとして、見当識障害による不安感の増加が挙げられますが、抑制的な対応は混乱を招くうえ、眠りの妨げになる可能性があります。認知症の方が良質な睡眠を保つためには、生活のリズムを整えることが大切です。

A様は100歳を超えるご高齢ですが、穏やかな性格で笑顔が印象的な女性です。難聴のため大きな声での簡単な会話は可能ですが、コミュニケーションが十分取れるとは言えない状況です。夜間はオムツ、日中もリハビリパンツを使用し、立ち上がりや

取り組み(第1クール)

連続した睡眠時間を増やすために、認知症の方の睡眠確保のポイントに沿い、生活リズムの改善に向けた取り組みを開始しました。日中に体操やレクリエーションで体を動かす、活動的に過ごしていただくようお誘いしましたが、体操の時には他のご入居者の様子を眺めるだけで、職員が横で声掛けをしても途中で動きを止めてしまうことも多く、活動量は伸びませんでした。そこで午後のレクリエーションはボールを使用したり、サンダルを飛ばしたり、身体を動かして活動量を増やすメニューを中心に実施しました。こちらは笑顔も多くみられ、歓声をあげて楽しんで参加されていました。



認知症の方の睡眠確保のポイント

- 午前中に日光を浴びる
- 入床・起床時間を規則正しく整える
- 食事時間を規則正しく整える
- 昼寝を避ける・日中ベッドにいない
- 決まった時刻に体操をする

一次評価

平均睡眠時間は4時間14分で取り組み前に比べ10分程減少、睡眠効率は49%

1%減少しました。ただし、連続した睡眠時間は増加し中途覚醒が減少しました。また、頓用だった就寝前薬が定期処方になったことで、就床時間のバラつきが減りました。

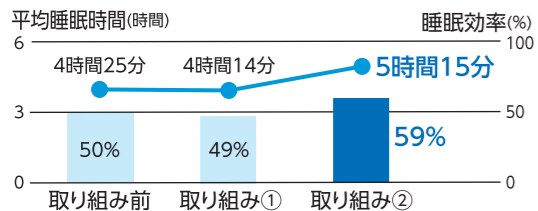
考察と取り組み(第2クール)

A様の覚醒理由の一つとして、夜間オムツを外す頻度が多い点に注目しました。失禁時だけでなく、排泄介助直後もオムツを外されることから、オムツの違和感や窮屈さがそうさせ、目が覚めてしまっているのではないかと推測しました。

そこで、日中の活動量増加に加え、夜間はオムツではなく、リハビリパンツとパットを着用し、覚醒が多かった0時を目安にトイレ誘導をすることにしました。

二次評価

取り組みにより、平均睡眠時間は5時間15分と約50分増加、睡眠効率は59%と9%増加しました。就床時刻に続いて起床時刻も安定し、睡眠における生活リズムが整ってきたことで「オムツ(パット)外し」は減少しました。



いた時間の割合)、就床時刻・起床時刻を読み取り、A様の睡眠状況を評価しました。

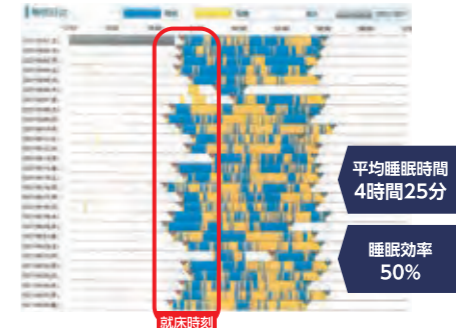
眠りスキャン

シート状のセンサーをマットレスの下に敷き込むだけで、ベッドご利用者の呼吸数や心拍数、睡眠状態、覚醒、起き上がり、離床動作などを遠隔においてリアルタイムに把握することができるセンサー。



(眠りスキャンによるデータ)

■眠りスキャン 睡眠日誌 5月1日~5月28日



青い部分=睡眠とされる時間帯、黄色い部分=覚醒とされる時間帯、赤い三角形=就床時刻、青い三角=起床時刻を表しています。

初回評価

眠りスキャンでA様の睡眠状況を確認すると、寝付きは良いものの数時間で覚醒してしまう傾向が判明しました。就床時刻が遅い日と早い日とは最大で4時間の差があり、平均睡眠時間は4時間25分、睡眠効率は50%でした。

まとめ

A様の生活リズムを整え、睡眠時間を増やす目的で取り組みを始めました。第1クールでは日中の活動量を増やすことに取り組んだものの、大きな効果としては現れませんでした。

一次評価の結果をふまえて第2クールではリハビリパンツとパットの着用とトイレ誘導を実施。オムツ外しや中途覚醒が減少したことにより転倒防止や職員の負担軽減にもつながりました。せつかく眠っているのを起こさないようにとオムツをしていたことが、逆に不快感となって睡眠を妨げていたということに気づかされました。

スタッフボイス



ネオ・サミット茅ヶ崎ケアレジデンス 小熊 尚樹

今回の取り組みを通して、ご入居者の小さなことでも情報共有の重要性や、認知症についての認識不足など、様々な課題が見えてきました。これからはスタッフ一人ひとりが意識的に問題提起や相談を行い、課題を解決しながら、ご入居者ファーストのケアを実践していきたいです。

感動

プロジェクト

オンリーワン

もみの樹・横浜鶴見 H様(90代前半) 要介護5

入院先から入居することにも… でも、もう一度自宅に行きたい！

背景

ご入居前の思いも受け止め 計画始動。

H様はもともとご自宅で元気に過ごされていましたが、階段で転倒し頸椎損傷を負い入院となりました。退院まで5ヶ月間を要し、ご自宅での生活は難しいということになり、もみの樹・横浜鶴見へのご入居が決まりました。

その際、H様とご家族から、「入居当日にもう一度自宅に行きたい」「自宅に置いてある物を見たい」との思いをうかがい、病院からもみの樹・横浜鶴見にお越しいただく前に、H様をご自宅にお連れする本プロジェクトを立案しました。

実施までの取り組み

担架搬送の練習を重ね、 安全性を確保。

安全にご自宅にお戻りいただくため、ご家族にヒアリングをしたところ、玄関までに階段が10段程度あることが分かりました。そこで、ご家族に階段の写真を撮っていただき、具体的な移動方法を検討することにしました。

H様はリクライニング車椅子対応であるため、移動の安全性を確保できるよう、もみの樹・練馬から座位式担架を借りる手配をしました。



雨にも配慮し4人体制で慎重に

当日の様子・今後に向けて 新たな夢へと繋がる、 笑顔のご帰宅に。

退院当日、H様が入院している病院にスタッフが迎えにうかがいました。あいにくの雨でしたが、座位式担架を使用し、玄関前の階段を上がり、無事H様をご自宅にお連れすることができました。

ご自宅でお待ちになっていたH様の奥様も、コロナ禍で面会がなかなかできなかったこともあり大変喜ばれていました。

H様も嬉しそうに趣味の習字や絵の作品を見せてくださり、「施設でこれらの作品展などもしたい！」と新たな夢に意欲満々。スタッフ一同、H様の願いを実現するために、次なるプロジェクトを企画していくことにしました。



ご自宅で寛ぐH様と奥様

ご入居後の様子

リハビリに励まれ、歩行が可能に。

ご入居後、H様は「再度ご自宅に帰ること」を目標に日々の生活リハビリや機能訓練に励まれ、P O P O(吊り上げ式歩行器)で歩行ができるレベルまでADL(日常生活動作)が向上しました。

また、嚥下機能訓練も行い、現在では経鼻経管が外れ3食経口摂取可能になりました。H様もご家族もご入居時より笑顔が増えています。

感動プロジェクト「オンリーワン」とは

いくつになっても自分らしく生きることを大切にしてほしい、という願いから企画されました。

ご入居者が人生でやり残したことや、諦めてしまっていることのお手伝いをさせていただき、その人らしさを取り戻す機会を提供しています。

ご入居者に夢の達成に至るまでの目標を持った充実した生活、そして、夢を実現した達成感を味わっていただけるプロジェクトです。

また、ケアマネジャー、機能訓練指導員、事務スタッフが連携し、担架による移動、階段昇降の練習を行い、万全の体制でプロジェクト当日に備えました。



担架による階段昇降の練習

スタッフボイス



もみの樹・横浜鶴見
入居相談員
高杉 侑弥

私はオンリーワンプロジェクトには、発足当初からメンバーとして関わっており、介護職として働くうえで、一番のやりがいと繋がると実感しております。

現場を離れた今でも、ご入居者のために、ご入居者の思いを実現するために、メンバーとして関わりを持っていきたいと思っております。